

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和8年2月4日(水) 10:00~12:00
- 3 開催場所 関特別支援学校 大会議室
- 4 参加者
会長 水野 友有 (中部学院大学人間福祉学部人間福祉科教授)
委員 高木 哲 (岐阜県立ひまわりの丘第一学園 次長) →欠席
吉田 俊一 (Man to ManPasso 株式会社パッソ岐阜校マネージャー)
澤井 基光 (地域代表・岐阜県民生委員児童委員協議会顧問)
清水 恵子 (各務原市福祉の里所長)
増田 裕恵 (PTA代表)
森藤 由幸 (関市民生委員・地域住民代表)
吉田 純也 (株式会社Fデザイナーズ代表取締役)
学 校 側
渡辺 政幸 (校長)
川上 悦子 (事務部長) →公務
三宅 千絵 (教頭)
河田 恭子 (小・中学部主事)
森 雅明 (高等部主事) →欠席
藤井 大悟 (教務主任)

5 会議の概要 (協議事項)

- ・ 学校長挨拶
- ・ 学校評価アンケートについて
- ・ 自校反省について
- ・ 会長挨拶

(1) 学校評価アンケートについて

意見1: いじめや差別についてわからない、感じたことがないというのは良いことだ。心理的な安心が保たれている。具体的に取組んでいることを伝えていけるとよい。生徒については生徒の言葉そのものをアンケートに記すと生徒自身が見えてくるのではないか。

意見2: 回答が否定的な保護者に対してどのように対応しているか。

→ 懇談や通信等で具体的な活動の様子を伝えている。担任だけでなく、主事をはじめ管理職やコーディネーターが入り、支援会議を開くなど一緒に取組んでいる。

(2) 自校反省について

意見1：情報共有の深化について、全職員で共有し支援がバラバラになっていないかを繰り返し見直すとよい。地域連携はとてもよい取組みだが、地域住民の認知度が低いので地域の回覧板に入れるなど積極的に踏み出すとよい。

意見2：バギーランのいきさつについて知りたい。体験できるならぜひやってみたい。

→世界では行われているが日本ではまだなく、現在選手もコーチもない。車体も輸入しており、車いす製作会社に協力してもらっている。中部学院大学の教員たちでチームを作り研究としてスタートした。大学から関特別支援学校に相談をして卒業生とつながった。東京マラソンに出場があるのでぜひ注目してほしい。今後乗る側も育てていきたい。競技というよりは、インクルーシブスポーツとして考えている。地域の方と乗ってみる体験ができるとうい。

意見3：訪問の児童生徒がICT機器を使って一緒に授業などできるのではないかと。県の予算はあるのか。

→訪問の児童生徒についてもタブレット端末が支給されている。通信部分については、県が調整している。ただし、来年度から高等部は、支給ではなくなる。

意見4：新しい取組みを行いながら、前に進もうとしていることがよく分かった。コンセンサスについては、企業でも同じでトレーニングしていく必要がある。動機形成は難しい問題だが児童生徒については、どのようにしているか。また、小中学部の自己選択自己決定について教えてほしい。自己選択は責任を伴うことを企業でも教えていく。

→生活や今までの体験と結び付けながら意欲をもてるように仕組み、日常の中で自ら選んでいく経験を積み重ねるようにしている。

意見5：保護者として学校に求めること、期待することは、安心して通ってほしいということだ。教職員に余裕がないと不安に気付けないのでゆとりを大事にしてほしい。

意見6：卒業生に対するケアは、学校として何かあるか。特別支援学校に来ると地域から離れることになり卒業生が地域に戻った時に居場所がなくなってしまう。

→同じ地域の児童生徒とかかわりを持つことは大切だ。交流籍交流を行っている。卒業生に対しては、卒業前から連携先と連携会議等を行い卒業後3年間進路先に訪問して卒業後支援を行っている。

意見7：情報共有について、保護者は連絡帳に様子を記入しているが、活用の幅を広げるとよい。

(3) 委員長挨拶

学校を開いていく決断や受け入れることは大変だが、協働学習を丁寧に授業に落とし込んでいくことに大学としても感謝している。学校間の連携から地域に広げていくことが来年度の課題となる。2月18日の協働活動に学校運営協議会の皆さんも参加してほしい。来年度は、この委員会のメンバーでワークショップができるとよい。協働学習での関わりの中での学びをZINEという雑誌に記した。広報として活用できるとよい。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、学校アンケートや自校評価について意見交換を行った。学校の教育活動に賛同し協力していただいていることを感じた。今後は、現在行っている取組をさらに深化させていきたい。